

地震災害について理解を深めよう!!

地震情報に関する用語

マグニチュード

「マグニチュード」は、地震の規模を表す尺度で、1つの地震に対して1つの値が定められています。

震 度

「震度」とは、人が感じる揺れの強さのことで、計測震度計により観測し発表されます。震度は震源からの距離で変わります。

震源の深さ

「震源の深さ」とは、地震が発生した場所である震源が、地表からどれくらい深いところにあるかを表したものです。マグニチュード（地震の規模）が同じ場合、震源が浅いと強い揺れとなり、範囲は狭くなります。一方で、震源が深いほど揺れは弱くなり、広い範囲に揺れが伝わります。

阪神・淡路大震災は震源が浅かったので、狭い範囲で強い揺れとなりました。

前震・本震・余震

一連の地震活動で、大きな地震を「本震」、その後に発生する地震を「余震」といいます。本震の前に「前震」といわれる地震が発生する場合があります。前震・本震・余震の区別は、一連の地震活動が終わるまでわからないため注意が必要です！

気象庁が発表する地震の震度は10階級あります

震度 0	揺れを感じない。	震度 5 弱	大半の人が物につかまりたいと感じる。棚にある食器類や本が落ちることがある。
震度 1	屋内で揺れをわずかに感じる人がいる。	震度 5 強	大半の人が行動に支障を感じる。固定してない家具が倒れることがある。
震度 2	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。	震度 6 弱	立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが破損することがある。
震度 3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。	震度 6 強	はわないと動くことができない。大きな地割れが生じることがある。
震度 4	歩いている人のほとんどが揺れを感じる。電灯などの吊り下げ物は大きく揺れる。	震度 7	はわないと動くことができない。建物が倒壊することがある。

住宅密集地は大規模火災に注意！

大きな地震が発生した後、被災地では大規模な火災がたびたび発生しており、建物密集度が高いほどより大きな被害が出ます。近年では、「電気関係による通電火災」が、地震火災の発生理由の過半数を占めています。

通電火災は、停電後、電気が復旧した際に、損傷した電気設備や配線、倒れた電気機器が原因で発生します。火災を未然に防ぐためには、停電時に自宅のブレーカーを切ったり、感震ブレーカーの設置が有効です。

地震ハザードマップ

利根町公式ホームページに地震ハザードマップ（ゆれやすさマップ・液状化マップ）を掲載しています。

右側の二次元コードから読み取ることができますので、ご自身の住んでいる場所を確認してみましょう！！

